

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 16人

② 算数 16人

5 留意事項

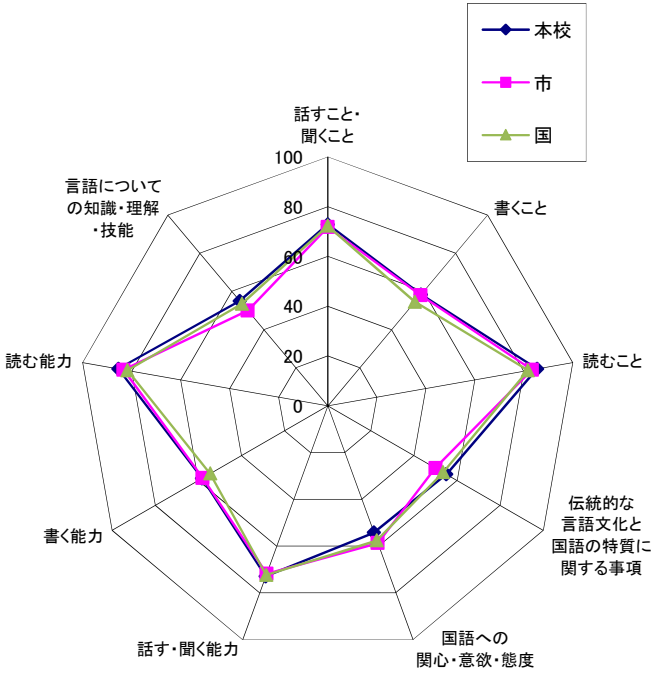
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.9	71.8	72.3
	書くこと	58.3	58.0	54.5
	読むこと	85.4	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.0	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	54.2	58.7	57.6
	話す・聞く能力	72.9	71.8	72.3
	書く能力	58.3	58.0	54.5
	読む能力	85.4	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	55.0	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

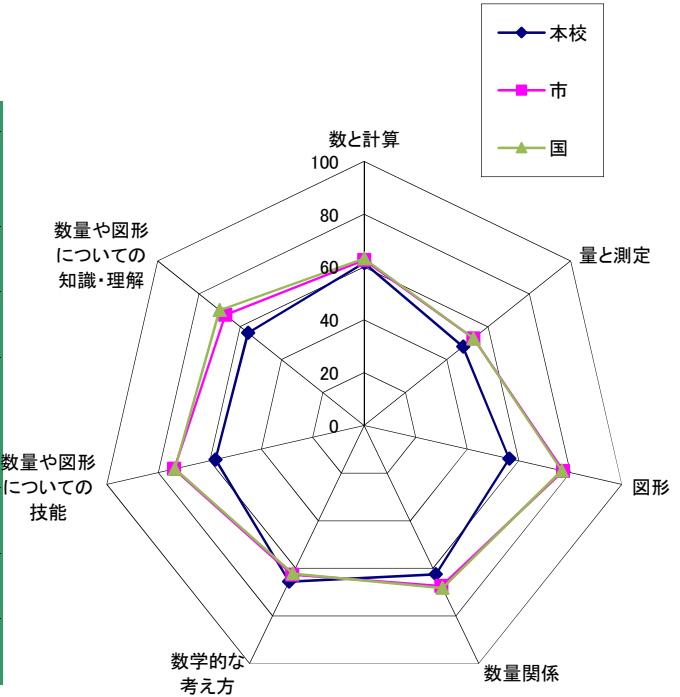
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し手の意図を押さえながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をする設問は正答率87.5%と市や全国の平均を約6ポイント上回っている。朝の会のスピーチや、グループでの話し合い活動を繰り返し取り入れた成果の表れであるといえる。 ●目的に応じて、質問を工夫する設問の正答率は62.5%と市や全国の正答率と比べ、約5ポイント下回っており課題が見られる。	・総合的な学習や他教科との関連を図り、国語の学習で学んだことを生かして、インタビューなどの体験を意図的に取り入れていくことで、より相手を意識した質疑応答ができるようにさせる。
書くこと	○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を押さえる設問は、正答率93.8%と市や全国の正答率を約30ポイント上回っている。国語の学習を生かし、他教科でも発表会形式の授業の実践を取り入れたことが有効であった。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書く設問は、正答率が25.0%と低い。また問題の形式が記述式である設問に苦手意識が見られる。 ●図表やグラフを用いた目的を押さえる設問の正答率は56.3%で市や全国の正答率を約15ポイント下回っている。	・国語だけでなく、他教科においても調べ学習の多様なまとめ方を体験させ、目的に応じて自分の考えをまとめる活動を多く取り入れる。 ・意見文の構造を分かりやすく理解できるように、意見文などの指導を丁寧に行い、根拠を明確にして自分の意見をまとめる力を付けさせる。
読むこと	○目的に応じて文章全体を概観して効果的に読む設問は93.8%の正答率で、市や全国の正答率とも比べ上回っている。授業中、文の構成を意識しながら場面や段落の内容を丁寧に読み取ることを繰り返した結果であるといえる。 ●文の内容を的確に押さえ、それに対する自分の意見を考える設問では、正答率が68.8%と市や全国の平均より約10ポイント下回っている。	・文章を読むときには、その単元ごとの読み取りのめあてを明確にし、叙述に即して読み進めるようにさせる。また、説明文の読み取りでは、筆者の考えを読み取りながら、それに対する自分の意見を文章化してまとめる体験を積ませる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字を文の中で正しく使う設問は個人差が見られる。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問では、正答率が68.8%であったが市や全国の正答率に比べると、わずかに下回った。	・宿題や自主学習を通して、漢字や語句に関する定着度を高める。 ・熟語で覚えるなど、漢字の練習の仕方を工夫したり、読書や読み聞かせ、辞書の活用を通して語彙を増やしたりする。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.6	62.7	63.2
	量と測定	47.9	52.9	52.9
	図形	56.3	77.3	76.7
	数量関係	62.5	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	65.6	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	57.8	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	56.3	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○減法や除法の計算に関して、より計算しやすい式に直す設問がよくできている。示された方法や友達が考えた方法を用いて、自分でも実際に計算するような活動を多く取り入れた成果であると考えられる。 ●「 $6+0.5\times 2$ 」のような、加法と乗法の混合した計算につまずく児童が多い。	・四則計算の決まりなどを確認し、基本的な計算の技能を身につけさせる。
量と測定	●示された図形の面積の求め方に関する式を理解し、その内容について説明する設問につまずきが見られる。	・自分で考えた式の意味を説明するだけでなく、示された式や友達が考えた式が、どのような意味をもっているのかを理解する活動を随時取り入れる。
図形	●台形についての基本的な理解につまずきがある児童がいる。 ●図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する力に課題が見られる。	・図形の学習をした際には、図形の基本的な性質や構成要素などをしっかりと確認していく。 ・図形に関する学習をする際には、実際の図形や図形パズルなどを用いて、具体的に操作する活動を取り入れていく。
数量関係	○「だいたい何分後に自分の順番が来るのか」を知るために「時間」と「人数」の二つの数量が必要であることを見出す設問がよくできている。 ●場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に式や答えを導く設問に関して、全国平均と比べ若干の落ち込みがある。	・より複雑な状況であっても、一つ一つ整理しながら解決していくように指導する。 ・課題を解決するために必要な数量を見出すことはできるので、それらを使ってどのように式に表していくのかについて、筋道を立てて答えを導くことができるように継続的に指導を続ける。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では「している(食べている)」と回答した児童が94%を超えており、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問でも肯定的な回答した児童が、同じく94%を超えている。これらの結果から、学校で実施している「生活習慣チェック」の成果が表れているので、今後も家庭と連携しながら、児童に基本的な生活習慣が身に付くよう指導する。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問には100%の児童が肯定的回答をしている。これは、「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますか」の質問に100%の児童が肯定的回答をしているように、生活の中で成功体験を重ねていることや、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に94%以上の児童が肯定的回答をしているように、周りから認められる経験をしていることなどが要因で、自己肯定感が高く保たれていることの表れと思われる。このことが、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に100%の児童が肯定的回答をする意欲にもつながっている。今後も学校や家庭において、児童のよさを認め励まし、自尊感情をいっそう育んでいく。

○「学校のきまりを守っていますか」や「人が困っているときは進んで助けていますか」の質問に、100%の児童が「当てはまる」と回答していることから、児童はしっかりと学校のきまりを意識し、互いに思いやりをもって生活していることが分かる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問にも、同じく100%の児童が「当てはまる」と回答している。学校や家庭において、いじめ防止への取り組みを不断に行ってきた成果と言える。今後も、児童一人一人が安心して生活できるような環境づくりを、家庭と連携して行っていく。

●「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問において、本校で家庭学習の時間の目安として児童に示している「高学年は60分以上」をクリアしている児童は7割に満たない。また、「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、「全くしない」と回答した児童の割合が41.2%と、国や県の結果より多い。保護者にもご協力を仰ぎ、家庭での時間の使い方を見直しさせるとともに、自主学習メニューを紹介したり、学校図書館などで本を借りる機会を多くしたりして、宿題以外の勉強や読書に意欲をもって取り組めるよう指導する。

●国語や算数の勉強について、「大切だと思いますか」「内容はよく分かりますか」「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」などの質問には、100%近くの児童が肯定的回答をしている。しかし、「好きですか」の質問に肯定的回答をした児童は、国語は64.7%、算数は70.6%に留まっている。児童がより意欲をもって取り組めるように、それぞれの学習の楽しさや面白さを実感できるような授業の導入や展開を工夫する。

宇都宮市立篠井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎学力の定着と、学び合い	・ねらいを明確にし、学習の流れが分かりやすい授業展開 ・家庭学習の習慣化を図るための自主学習計画の活用 ・朝学習を利用した復習の徹底	・国語の正答率は領域、観点共に良好であった。しかし、算数の正答率は課題が見られた。 ・家庭学習の習慣が十分身につけているとは言えない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数を中心とした基礎・基本の確かな定着 ・家庭学習の習慣化	・分かりやすい授業の展開 ・個に応じた指導 ・復習問題の繰り返しの実施	・学習パターンの統一化 ・TTによる算数の実施、習熟度別学習の実施 ・全校一斉でのマスターカードの実施